

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録
2016年9月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

ギャラクシー賞エントリー 電子化いよいよスタート

―7月理事会報告―

2016年7月26日、7月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 水島編集長

・14日に新体制の編集委員会を開催して10月号と11月号の特集を決めた。10月号は「ネット炎上とテレビはどう向き合う?」「2016参院選〜テレビ報道の統括」の特集をメインに、永六輔さん、大橋巨泉さんを追悼する。表紙は坂口健太郎さん。ザ・パーソンは原憲一さん。11月号は「リオオリンピックの試金石」。表紙は要潤さん。ザ・パーソンはさだまさしさんに交渉中。

・鈴木副編集長の就任について、委員任期満了から継続して副編集長を務めることを、細則8条4項に従い承認。

・8月号ザ・パーソンの高市早苗総務大臣の記事については、「パーソンの拡大版については議論の必要がある」「書面回答はかなり異例である」などの意見があった。また、正会員による意見広告について議論を交わした。

◇選奨事業委員会 稗田委員長

〈テレビ委員会〉 岩根副委員長

・6月27日に6月度の月評会を開催して、NHKスペシャル「私たちのこれから #不寛容社会」(NHK)、プレミアアムドラマ「奇跡の人」(NHK)、土曜ドラマ「トットてれび」(NHK)、「ゆとりですがなにか」(日本テレビ)の4本を選んだ。

・Netflixのオリジナルドラマ「火花」が話題となったが、オリジナルドラマを発信する映像

配信サービス制作番組の評価について、これから議論していく予定。
(ラジオ委員会) 橋本委員長
・7月19日に定例会を開催。「方言を使った地元密着番組」をテーマに青森放送と琉球放送の番組を聴取した。

・24日に「入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」を開催。一般が38人、学生が7人、合計45人集まった。17日に朝日新聞に告知記事を掲載してもらったが、効果は芳しくなかった。

〈CM委員会〉 稗田委員長

・21日に定例会を開催し、約30本のCMについて話し合った。

・「第53回ギャラクシー賞CM入賞作品を見る会」を9月3日(土)オムニバス・ジャパン赤坂ビデオセンターで開催。定員30名。ゲストにCM部門大賞受賞作CDの篠原誠さんを招く予定。

〈報道活動委員会〉 藤久常務理事

・28日に新体制の顔合わせを行う。
◇第53回ギャラクシー賞贈賞式懇親会決算報告 中島事務局長

・見込み通りであるが、会場変更に伴い前年比160万円増となつ

た。

・トロフィーレプリカ依頼は8件10本。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・25日に委員会を開催。9月16日開催予定のセミナー「ラジオの可能性を真剣に考える2」の受講者を近日に募集開始する。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・7月6日にプロジェクト委員会を実施。現状の会員分析を行った。

・学生を対象に正会員の紹介で半額、無料となる特別枠を用意。

・会員の満足度向上方法を検討。シンポジウム割引参加など、メリットを感じさせるものを企画する。

・正会員に積極的にマイベストTV賞に投票してもらうため、発送する「GALAC」に投票用紙を同封する。

2. その他

①正会員入会

〈入会〉岩城浩幸さん、大野茂さん、西森路代さん

岩城さん、西森さんをテレビ部門選奨委員として承認。

②アサツデー・ケイ退会申し出の

件について

藤田専務理事、中島事務局長がアサツデー・ケイ総務局長と打ち合わせを行い、維持会員として継続を確認した。

③ギャラクシー賞エントリーシステム稼働について

第54回上期募集よりデジタル化を開始。現在、細部の最終調整を行っている。選奨委員の選考手順などは、各委員会で事務局から説明する。

④日韓中テレビ制作者フォーラムについて

会として音理事長、沈霄虹さんを派遣を決定。

⑤正会員名簿印刷について

・正会員名簿のプリント版の一斉配布は見送ることを決定。

・ホームページに正会員クローズドシステムを開設するなど、新たな正会員情報の提供方法を検討する。

⑥その他

・細則変更の第一次案を9月理事会で提示予定。

・古賀佳子職員が7月8日付で退職。

次回以降の理事会

9月29日(木)

10月27日(木)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、藤久ミネ、川喜田尚、水島宏明、稗田政憲、滝野俊一、岩根彰子、五井千鶴子、小林毅、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、鈴木健司、松山珠美、山田健太、中島好登

会議記録

〔7月〕

- 6日 マイベストTV賞プロジェクト委員会
- 14日 出版編集委員会
- 19日 (選奨) ラジオ定例部会
- 21日 (選奨) CM定例部会
- 25日 企画事業委員会
- 26日 理事会
- 28日 (選奨) 報道活動委員会



永遠のテレビ少年です

石井裕一郎

NHKに入局して28年、歴史番組やドキュメンタリーの制作を経験してきました。無名の武士が仇討ちでお家再興を果たすまでの30年の記録と、その後迎えることになる不幸な日々をご子孫を追跡する中で知り、ままならぬ人の世に涙しました。

子供の頃は鍵っ子でテレビが一番の友達でした。アニメや人形劇。その後は時代劇やトレンディ・ドラマ放送局に職を得るとドキュメンタリーと出会いました。事実を掘り起こして社会の底流や潮流を伝える奥の深さに打ちのめされる日々でした。そして3年前から「地方の時代」映像祭の事務局のお手伝いを始め、NHK・民放を問わず全国にわたる作り手の裾野の広さを痛感しています。感動がなければ、真面目なことにむきあえないように思い、幼い頃テレビで味わったワクワク感を今も大切にしています。私のような経験浅きものでも、番組を掘り起こすお手伝いになるならば……。市村元さんのお誘いで入会しました。

新入正会員自己紹介

高齢者予備軍を生きる

伊藤友治

「トレンディ・ドラマに主演してみませんか？」

まだ駆け出しの頃、街中で何度かそういう誘いを受けたものです。その度に、「俳優に興味はありません。私の夢は海外特派員になることです」と、断わり続けて参りました。

あれから三十数年。「後悔先に立たず」とは、よく言ったものです。還暦を過ぎた今、自慢の美貌はすっかり衰え、十人並みになってしまいました。

そんな時に、師と仰ぐ橋本隆先輩から、救いの声を掛けていただきました。

「よっしゃ、もう、ひと花咲かせてやろうじゃないか！」根は単純な性格でございます。やっとのこととで遣り甲斐と生き甲斐を見出した今、二十歳ぐらいは若返った気分でございます。

されど、気負わず、建設的な批評と批判を心掛けて参ります。

1953年、福島県郡山市の生まれの自称「国際派」です。

新入正会員自己紹介

放送マンと共存共苦

大澤恒夫

「世の中広いんだ」そう気付かされた浅草の菓子屋の俵は、居心地のいい下町を飛び出した。1973年のこと。以来この6月までテレビ31年、ラジオ12年、報道を中心にほぼ番組制作の現場で全うした。

ラジオ時代はダンスケ小僧として録音構成ニュースにドキュメンタリー、深夜放送でのニュース解説、初の自民党総裁選、ロッキード裁判を担当。

テレビでは政治部、「報道特集」、プライムタイム、外信部、「サンデーモーニング」など、記者やD、P、特派員として、ベルリンの壁崩壊、ロス暴動、衆参選挙解説からアカデミー賞まで、その時どきの現場に赴いた。

この度、放懇へのお誘いを受け「放送マンと共存共苦しよう」と会員に加えて頂いた。事務局から届いた「ギヤラクシー賞40年史」他を拝見、自分の理解を遥かに超える活動内容の充実ぶりに、身が引き締まる思いである。

ラジオにしかできないこと

大谷知史

中学時代、たまたま流れてきた深夜放送。聞き慣れないパーソナリティにハマったのがすべての始まりでした。彼の名前は、谷村新司。無名の彼になぜハマったのか？ 深く意識するでもなく、時は流れます。

大学卒業後、ひょんなご縁から東京のTBS系ラジオ番組制作会社に入社。その後、地元神戸のKiss FMで開局編成を担当。

マーケティングを意識した番組作りを売りに2002年に独立。NHK、民放各局で番組制作してきました。ところが、しばらくしてラジオはどんどん厳しい時代に。これはま

ずい！
そんな時、谷村さんの番組を思い出したのです。心に残っているのは、彼の魅力かと思っていたけど、もしかしたら、それこそがラジオの魅力だったのではないか？

現在、この稀有な魅力をインターネットという現代のインフラと融合させるべく、ITコンサルタントとともに追究しています。

新入正会員自己紹介

番組制作の裏側に想いを

小泉世津子

教育テレビ番組の制作に長年携わり、教育コンテンツの国際コンクル事務局や世界各国の番組コンクールへの出品、国際放送の仕事などを通して多くの出会いを得たことを幸せに思う放送人です。

公共放送に身を置いた40年近くの経験の中で、平成20年から4年間、在京民放キー局や各地の民放の皆さんと共に、国際放送の仕事をご一緒する機会を得ました。平成23年の東日本大震災後には、各局が制作したドキュメンタリーの英語版を、世界に発信し続けることに専心しました。風評被害のひろがり懸念し日本の今をきちんと世界に伝えようというひとつの願いを共有して各局担当者の方々とスクラムを組んだ経験は、私にとつて宝物になりました。

この度、選奨事業のテレビ委員会のお手伝いを仰せつかり、身の引き締まる心持ちです。番組の生みの親として奮闘する制作者一人ずつに想いを馳せつつ務めたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

新入正会員自己紹介

ラジオは消えゆくメディアか

小林浩子

ラジオ番組の構成作家をしています。最近取材先で10代、20代の方に「ラジオってなに？」「ラジオってどうやって聞けばいいんですか？」と真顔で聞われることがあります。ラジオそのものを見たことがない、という若い世代が増えています。

一方、日々のリスナーとのやりとりでは、ラジオが人の心を直接動かす「不思議な力」も感じています。「わたしも断捨離始めました」「今日さっそく家族にありがとうの気持ち伝えようと思います」小さな、でも具体的な一歩を踏み出すきっかけをもたらす力がラジオにはあります。東日本大震災後、「丁寧な暮らし方」や「人と人の絆」が改めて注目されています。日々心穏やかに笑って暮らせること。愚痴を言いあう家族や仲間がいること。「21世紀型の幸せ」に近いコンセプトがラジオにあるのだとしたら、ラジオは「消えゆくメディア」ではなく、「未来型のメディア」なのかもしれない。その答えを探っています。

CM一筋のオバさんです。

野上信子

1960年生まれ。

1981年、旧電通映画社の総務部に入社しました。役員室で働きたがら、CM制作の仕事を垣間見て、どうしても現場で働きたいと上司にゴリ押しし、5年後に制作進行として働き始めました。

当時、CM制作の現場にはまだ女性ほんの僅か。完全な男社会でした。それから約30年、今では女性がいなければ成立しない業界になったと感慨深いです。これから、もっと女性が働きやすい現場になればいいなあと思っています。

個人的には、その後勤めたエンジンフィルムという制作会社を最近辞職し、現在はフリーでCMプロデューサーをしています。時間ができたのでよくテレビを見ます。ニュースもワイドショーも2時間ドラマも突っ込みを入れながら楽しんでます。今回のギャラクシー大賞では、表現の自由を守る、という制作者のみなさんの気概が感じられて、嬉しかったです。よろしくお願ひします。

新入正会員自己紹介

きちんとお返しするって

星野裕

55歳になりました。人生後半戦、いや終盤戦です。昨年、永く勤務していた広告会社を早期退職しました。ずっとCMを中心とした広告の企画制作の現場が主戦場でした。そこは懊悩と快感の連続。ひと言で総じて言えば「こんな楽しい仕事はない」でした。でもある時ふと頭をよぎりました。これは何か広告という仕事にきちんと思返しをしなければきつとバチがあたるぞよ、と。

ご縁あって昨年から母校で教員となりました。自分が享受した広告のダイナミズムを若者たちに伝えること、それを信じた若者を次々と世の中に送り込むこと。それが自分なりの広告への恩返し、終盤戦のミッションかなと思っております。

今思うと現場時代は様々な「事情」がいつぱいでした。事情は時に楽しく、おかげで事情通にはなりました。でも初めて事情抜きで広告と接している今、世の中に出てきた広告たちを、素直に楽しんで観ていきたいと思っております。

新入正会員自己紹介

テレビ広告の魅力を伝えたい

道端令英子

大学卒業後、翻訳専門学校に通いながら、世界各国のラグジュアリーホテルが加盟するホテル協会で働き、バブル崩壊後にも関わらず、優雅なホテルライフを楽しむセレブに憧れたりした二十代前半。

当時、出版事業に携わったことがきっかけで、広告に興味を持ち、思い切って広告業界に転職し、外資系広告代理店でメディアプランナーとしての道を歩み始めたのが16年前のことです。

国外問わず、さまざまな企業のメディアプラン設計に携わり、商品やサービスを「売る」ために、どのような広告コミュニケーションが必要なのかを日々考えながら生活しております。

若者のテレビ離れが言われていますが、メディアプランナー、また母親の視点から、消費者・ターゲットに響くテレビ広告作品を発掘し、テレビ広告の魅力を伝えていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。



ギャラクシー賞 / NPO放送批評懇談会 ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

53rd Galaxy Award - CM

第53回ギャラクシー賞CM入賞作品を見る会

ギャラクシー賞CM部門委員会は、初めて「ギャラクシー賞CM入賞作品を見る会」を開催いたします。
「ギャラクシー賞CMとは何か」を選考過程も含め、作品の解説で明らかにいたします。
加えて特別ゲストに大賞受賞制作者をお招きし制作にまつわるお話を伺います。

開催日:2016年 9月3日(土)

時間:14:00~16:00(13:30開場)

入場無料/

事前申込制(定員30名)

締め切り8月17日(水)

(定員になり次第締め切り)

解説: 草川 衛 (元電通CD)

服部千恵子 (元東急エージェンシーCD)

特別ゲスト:篠原 誠

電通CD

2015年度クリエイター・オブ・ザ・イヤー受賞
ギャラクシー賞CM部門大賞受賞作CD



主催・お問い合わせ先:

NPO法人放送批評懇談会
ギャラクシー賞CM部門委員会
TEL:03-5379-5521

会場:(株)オムニバス・ジャパン

赤坂ビデオセンター 地下1F 試写室Sofia

(東京都港区赤坂7-9-11)

<http://www.omnibusjp.com/access/>

参加をご希望の方は、「CMを見る会参加希望」と書いて、お名前、所属、連絡先をご記入の上、下記メールアドレス宛にお送りいただくか、下記ファックス宛てにお送りください。

Mail: info@houkon.jp fax: 03-5379-5510 (放送批評懇談会事務局)

ファックスお申込み記入欄(このままファックスしてください。)

お名前	所属
連絡先	Mail

主催:NPO法人放送批評懇談会ギャラクシー賞CM部門委員会

協力:東北新社(株)、(株)オムニバス・ジャパン